

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、生まれも育ちも北海道で空知の田舎で育ちました。元々、土木とはまったく無縁の学生生活を送り、社会人になった後も自動車業界やサービス業界に身を置いていました。しかし、ある時、自分が勤めていた職場の店舗を改修することになり、工事を担当する工務店の方々と打合せを重ねるうちに、「モノ作りって面白そう!」、「建築業界で働きたい!」と思い、建築設計関連の職場を探

しましたが、やはり現実はそう甘くなく、なかなか未経験者が飛び込めるような業界じゃないことを痛感しました。それでも諦めきれず、チャレンジを繰り返す中、河川構造物の設計会社に入社することができました。建築分野ではありませんでしたが、モノづくりという部分では共通していたため、喜び安堵したことを覚えています。そこからは必死に勉強と実務を繰り返し、土木設計という業界で日々汗を流す毎日でした。そんな中、付き合いのある他社の方から港湾・漁港関連の設計案件を依頼されたことがきっかけとなり、その後(今から 16 年前)、縁あって現在の会社へ入社しました。

技術士については、業務受注において必要な資格であることはわかっていたものの、仕事の忙しさを言い訳になかなか本気になれない日々が続いておりましたが、一次試験合格を機に社内の技術士の方から勉強会への参加を勧められました。入塾後は多くの先輩技術士の方の添削を受け、鍛えていただいたことで、なんとか合格することが出来ました。現在はお世話になった当勉強会の水産部会長を務めさせていただき、技術士取得を目指す方々を毎年一人でも多く輩出できるようサポートに徹しています。もちろん自身も技術者としての自己研鑽を忘れず覚悟を持って業務に従事していく所存です!

鈴木 英裕 (すずき ひでひろ)

●水産部門(水産土木)

勤務先

株式会社クマシロシステム設計



→次号は、加嶋慎也さん(水産部門)

私は、京都生まれ京都市育ちでありましたが、大学で室蘭にきてから北海道での生活が始まりました。大学では情報工学科を専攻していましたが、研究室の教授の勧めで今の会社に入社し土木技術者としての道をスタートしました。そのため、入社当初は、土木用語辞典を片手に判らない言葉を調べるのが日課でありました。そんな私だからこそ、周りから認めてもらうためには資格の取得が必要、30代で技術士の取得を目標に色んなことへのチャレンジをしていくと心に誓いました。

業務としては、橋梁下部工設計から始まり、擁壁、函渠、覆道等の構造物設計を中心に日々努力を重ねていき、三層緩衝構造の覆道設計や複合地盤杭基礎の委員会では大学の先生や社外の先輩技術士から多くのことを学ばせてもらいました。そんな中、転機となったのは寒地土木研究所の業務に携わらせて頂いたことです。実験計画では課題、問題点の整理と解決方法を学び、学会論文等の作成で論文を書くこと自体も学ぶことができ、それを生かした3年後の平成23年に、ようやく40歳で念願の技術士を取得できました。

技術士の取得後は、事故対策、防災対策、軟弱地盤解析、越波解析など、専門分野以外のことにもチャレンジさせてもらって、土木技術者としての幅を広げているところであります。60歳までは、若い技術者に負けないように、チャレンジ精神、探求心を忘れず日々精進して努力をしていきたい。

そして、70歳、80歳でも、若手から頼られる先輩となり技術を伝承し、第2の故郷である北海道に少しでも恩返しができるように生涯土木技術者を続けていきたいと思っています。

村田 良英 (むらた よしひろ)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社 土木技術コンサルタント

e-mail: murata@doboku-gijutsu.co.jp



→次号は、伊藤 真さん(建設部門)